



発行所
株式会社 ホンマ電機
神奈川県相模原市上鶴間1丁目12-1
電話 042(746)1616(代)
ホームページ **ホンマ電機** 検索
発行責任者 本間俊三

おかげさまで創業35年



創業者、本間セツ専務・本間社長・本間光広常務

当社が産声を上げましたのは、オイルショックの年、昭和四十八年でした。社会状況は異なっても、まさに昨今のような社会経済の激動の年でありました。

以来、今日まで事業を継続してまいりました。多くの良きお客様と、良き従業員に恵まれてのことと深く銘記しております。また、本業以外の事業には一切手を出さず、お客様の要請に応じて柔軟に対応できるように会社が変化してゆく、このような姿勢を通してまいりました。

今日の金融不安の中にあっても若かった頃、親が話してくれた「借金は荷物」の格言を守り貫いてきたため、今、身軽でいられます。「事業は大きくすることが目的ではない。社会や顧客の要請に合わせ、身の丈に合った規模が一番」と考えております。

これからもお客様や社会がホンマ電機を必要として下さる限り、事業の継続は可能でありましよう。いずれ遠からず経営のバトンを渡す時が来る、そのバトンこそ、この理念だと考えております。

消費者の利益保護をめざす

消費生活用製品安全法

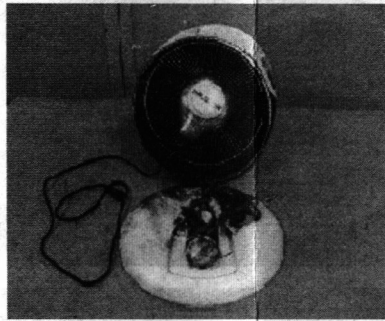
消費生活用製品安全法に関する事例

消費生活用製品安全法とは、私たちの日常生活において、一般消費者の生命や身体への危害発生の防止を図るために、特定製品の製造や販売を規制するとともに、その安全性の確保については、民間事業者の自主的活動を促進し、結果として一般消費者の利益保護を目的としています。

安全にかかわる意識の変化

最近、特に注目される話題は、食に関する安全性でありましよう。BSEが問題となり、鳥インフルエンザ、毒入り餃子、事故米そしてメラミンと次々に新たな問題が明らかになってきています。

私どもの取り扱う電気用品や消費生活用品においても、パロマ社製ガス湯沸かし器による死亡事故以来、かつてないほどの安全に関する配慮



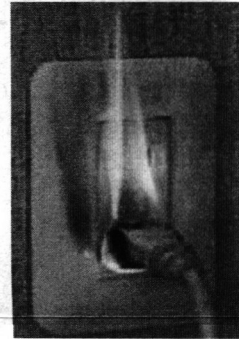
焼けた扇風機

が求められてきています。

次に紹介する身近に起きた災害事例などから、事故や災害の防止に役立てれば幸いです。

電気浴室乾燥機による火災

住宅展示場のモデルハウスで、浴室乾燥機の無いケースはまずないとされるほど、浴室乾燥機は人気商品です。しかしこの乾燥機は電気配線の欠陥がもとで、火災発生の原因となったケースがありました。



発火するコンセント

どのケースも配線工事を適正に行っていれば防げたもので、ハウスメーカー・乾燥機メーカーは、電気工事業界と一体となって、配線工事の



焼けた風呂場の天井

再調査を行い、事故の再発防止に取り組んでいます。

今年発生した事例としては、神奈川県伊勢原市の例があります。就寝前のご主人が、風呂場方向からの異臭に気付きドアを開けたところ、天井から煙が出ていました。間もなく浴室を含む回路の安全装置が動き電気が消え、類焼することなく天井に穴が開いただけで事なきを得ました。場所が天井であるだけに、発見が遅れて他に類焼していたらと思うとぞっとする事例でありました。

コンセントが火を噴く?

トラッキングともいいますが、家具などの陰に隠れ長年放置されたコンセントは、埃や湿気などの影響で微弱電流が流れます。この電流が絶縁物の劣化を早め、ついには大きな電流となって加熱焼損へと進行します。絶縁物の経年劣化とその進行を早める埃や湿気は、こまめに拭取るように注意することが大切です。

古くなった家電製品にも注意

最近発生した重大事故として、ガス器具による一酸化炭素中毒死亡事故の他に、古くなった扇風機による火災事故などがあります。また他の電気製品の欠陥に起因する火災事故も少なくありません。

某社の石油温風暖房器の場合は、不完全燃焼による一酸化炭素発生が指摘され、現在回収が進められています。これらの事故情報は、独立行政法人製品評価技術基盤機構（nippon）のウェブサイトに掲載されております。



夏のバーベキューの集い

恒例夏のバーベキューの集いを、さる七月二十五日夕方、当社の駐車場で開催しました。互いの仕事を思い、ビールで乾杯、日頃の疲れを癒しました。



和やかに歓談する社員たち

邦舞公演会に専務が出演

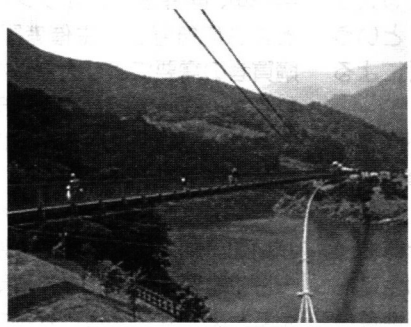
さる十月十九日、相模原市民会館ホールで市の邦舞三曲連盟主催による邦舞公演会が開催され、当社専務（花柳喜菊鳥）が今年「長唄 賤の小田巻」を舞いました。なお同連盟は伝統を重んじ芸道精進と和の心をスローガンに、結成以来四十二年の歴史を歩んでいます。



昨年の舞・清元「青海波」

新入社員紹介

福田 泰 (58歳)
入社 平成20年6月
第1種電気工事士
制御回路



塩原のもみじ谷大吊り橋

十一月九日から十日にかけて鮮やかな紅葉に染まる日光・磐梯・鬼怒川・塩原方面へ旅しました。世界遺産・日光東照宮、日光三名瀑の一つ霧降の滝を見て鬼怒川グランドホテル泊。翌日、龍王峡・白塩紅葉ラインを経て全長三〇二メートル、無補剛桁歩道吊橋では日本一の長さの塩原大吊り橋へ。那須お菓子の城・南ヶ丘牧場を見学して帰途につきました。

社員旅行は日光方面へ紅葉狩

⑤2 近況報告

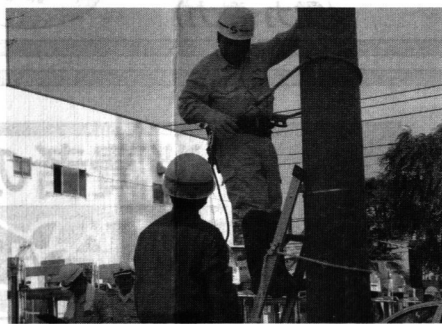


相模原電気工事共同組合の活動

請負工事店の安全研修

住宅などの引き込み口配線を、東京電力より請け負う電気工事店は、技能研修とともに定期的に安全研修を受けることが定められています。特に今回は、川崎市で発生した墜落死亡事故を受け、時期を繰り上げて行ったもので、八月八日の真夏の研修となりました。

研修は、東京電力技術員の指導と電気工事組合青年部の協力により、該当する一〇二社の全てが受講しました。



安全研修実施中

測定器の校正試験

電気事業者が使う測定器は、多岐にわたっています。特に電圧・電流・接地抵抗・絶縁抵抗などは日常的に計測する対象となるため、これを計測する計器は正確でなければなりません。

中でも絶縁抵抗と接地抵抗は、必要な値が法で定められているので、年一回以上の校正が必要となります。



校正試験に取り組む

BUSINESS

フィールド

既設マンションでの電気容量アップ

大きさにいえば昨今の住宅では、エネルギー戦争が進行しているといっても過言ではなく、それはガスと電気の熾烈な戦いです。住宅で消費されるエネルギーは、風呂や給湯、調理、空調などで、これらの熱を電気で賄うかガスにするか、その獲得競争です。

発端はいくつかありますが、最も大きい原因は、阪神淡路大地震で実証された、安全性と復旧の早さで電気が勝っていたことです。今日、関西地方の新築住宅の六割がオール電化であることが、それを物語っています。

います。さらに給湯器（ヒートポンプ式）や電磁調理器の技術革新がそれに続きます。その際、電気容量の大幅なアップと、当然それに伴う工事が必要となります。戸建住宅の増容量工事は比較的簡易なのに対し、既設マンションには多くの課題があります。

当社ではこれまで困難と思われてきたマンションの増容量化工事を数多く手がけてきました。最近の事例を紹介しましょう。

新宿区落合にある八〇戸ほどの築三十五年のマンションの例です。現在の契約容量は単三・三〇アンペアであるところ、オール電化が可能な単三・六〇アンペアまで容量を増やせるようになりました。

計画が持ち上がって最も時間を要するのは、理事会や居住者の合意であって、技術や施工面では、これまでのノウハウを生かせるので大きな課題はありません。

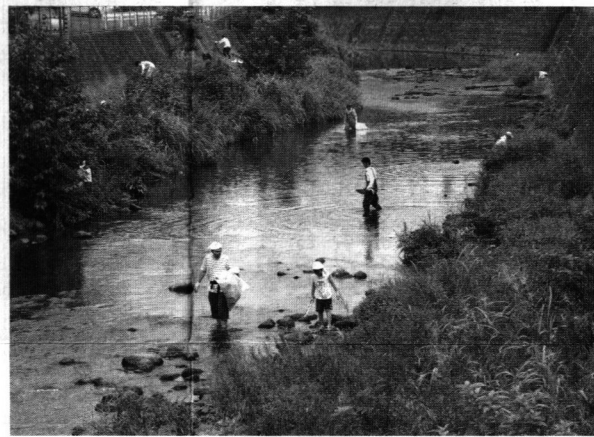


東電借室からの幹線部分



神田川を見下ろす当該マンション

ホンマ電機の地域貢献



境川「クリーンアップ作戦」のボランティア活動に参加

暑い夏の七月二十七日（土）、第八回「境川クリーンアップ作戦」が展開されました。

この作戦は町田・相模原の両市民が力を合わせ、両市の境を流れる境川を清掃する事業で、両市民の交流と境川の環境保全を目指すものです。

実行委員会が発表した当日の成果では、参加者六〇〇人、ゴミ二・五トでした。来賓として岩崎町田副市長はじめ関係部課長、相模原市からは市環境経済局長が激励とあいさつに見えました。

当社は、募金や作業協力で本事業を応援しています。

企業ルポ

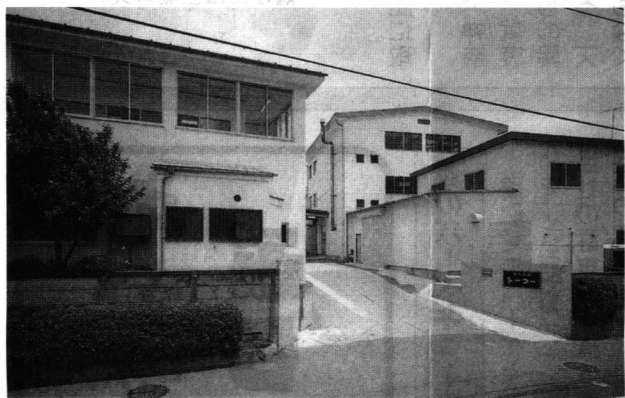
お客様紹介 55

トーコー 株式会社 トーコー

本社・工場 〒228-0802 神奈川県相模原市上鶴間1-9-11 TEL (042) 742-0243 (代)

代表取締役社長
遠藤 和敏氏

本社・工場 FAX 042-743-2620
URL <http://www.sagami-toko.co.jp>
E-mail: honsha@sagami-toko.co.jp
大沼工場 相模原市西大沼4-6-12
TEL042-748-9059 (代)



本社入口からの外観



大沼工場の内部

株式会社トーコー

- ・設立 昭和42年 7月
- ・資本金 4,500万円
- ・代表取締役社長 遠藤和敏氏
- ・年間売上高 5億円
- ・事業所数 2ヶ所
- ・社員数 51名
- ・事業内容
精密機械加工(大沼工場)
組立加工(本社工場)

精密機械加工技術と組立加工を具えた技術を誇る(株)トーコーは、東京航空計器(株)の子会社として設立されました。能力のある人が独立して新たな会社を築くという親会社の伝統的な経営方針によるものです。

設立当初、親会社の一部門としてトーシャファックス・事務機器の生産を始め、1969年には富士通(株)の受注により電子計算機と周辺機器の機械加工部品の生産を開始、資本金4,500万円に増資し

ました。以後数年を経て神奈川県知事より優良工場、標準工場の荣誉ある表彰と指定を受けました。

大沼工場は、半導体製造装置の生産開始に伴う生産力増強のため1984年に開設され、本社工場から移転した機械加工部門を担っています。現在の主な生産品、東京エレクトロンAT(株)殿とウシオ電機(株)殿より受注の液晶製造装置並びに半導体製造装置の生産に大きな割合を占めています。

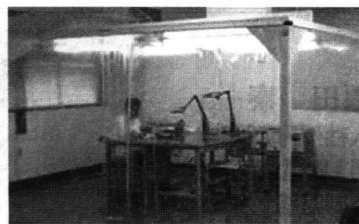
半導体業界はシリコンサイクルと呼ばれ景気の山と谷が激しく、4年毎に開催されるオリンピックとまさに符号し、主催者国やTV購買者の需要により大きく左右されます。従って当社では景気の山と谷が少ない液晶製造装置の生産を拡大させています。

製品の生産で最も重視されるのが納期。納入先が他社に先駆けて一日でも早く製品化する要請に応えるためです。品質と安価なコス

トは言うまでもありません。

なお同社は液晶、半導体製造装置部品等の製造において、品質マネジメントシステムに関する国際規格ISO9001を認証取得。また環境マネジメントシステムに関する国際規格ISO14001も認証取得。

今、環境関連製品として脚光を浴びているのが太陽光発電用太陽電池製造装置。同社では試作段階にあり、来年より量産の予定とか。「昨年、大沼工場火災の際、ホンマ電機が翌日に仮設電源を設置してくれ操業でき受注に応えられました。深く感謝しています」と前社長佐々木哲彌顧問がお話し下さいました。



クリーンブース・塵や埃を嫌う精密機械の組立をビニールの囲いの中で行う